

中堅リハビリ職 リーダー育成プロジェクト

「学ぶ側」から「教える側」へ。

社会基礎能力を構築する実践的プログラム

活動の目的

専門職としての知識・技術を基盤に、
次世代を担うリーダーとしての社会基礎能力を構築する

強化すべき「3つの社会基礎能力」



前に踏み出す力

失敗を恐れず、自ら一步を踏み出す
主体性と実行力。指示を待つのでは
なく、自ら課題にアプローチする
姿勢を養います。



考え抜く力

現状を分析し、真の課題を見つける
課題発見力と、それを解決へと導く
論理的な計画力・想像力を鍛えます
。



チームで動く力

多様なメンバーと協働するための
基盤となる傾聴力と、自分の考えを
適切に伝える発信力を高めます。

実践を通して磨かれるスキル群

本プロジェクトでは、座学（セミナー）でのインプットだけでなく、実際の課題解決を通じたアウトプットを重視します。

プロジェクトを通じて求められる力：

- ✔ 傾聴力：現場の「真のニーズ」を引き出す
- ✔ 課題発見力：聞き取った悩みから本質的な問題を見つける
- ✔ 計画力・想像力：解決への最適な道筋を描く
- ✔ 主体性・実行力：チームで責任を持って企画を実行する
- ✔ 発信力：解決策を対象者に分かりやすく伝える



方法と期間

現場の「困った」を起点とする、課題解決の全プロセス

プロジェクトの実施ステップ（前半）

Step 1 & 2

チーム編成とヒアリング

① チーム編成：

選出された中堅者（6～10年目）20名から、1チーム4～5名で計4～5チームを編成します。

② 現場の声の聴取：

2月に受講する「傾聴講座」のスキルを活かし、後輩や同僚から日々の業務における「困ったこと」をヒアリングします。

Step 3 & 4

課題の集約と設定

③ 教育部への提出：

各チームで現場から聞き取った「困ったこと」を取りまとめ、教育部に提出します。

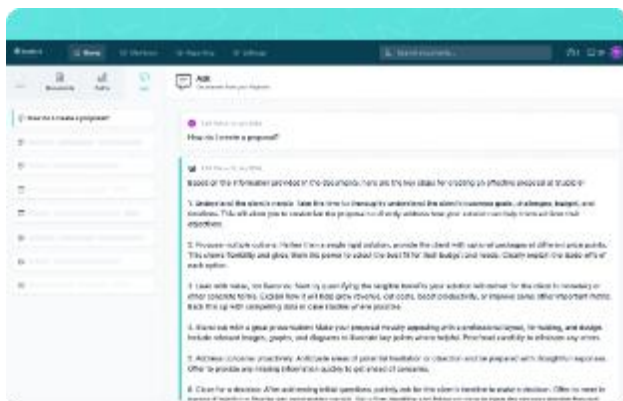
④ 課題の作成と提示：

教育部にて集約されたデータを集計・分類し、各チームが取り組むべき具体的な「課題」として設定し、提示します。

課題解決企画の実行（後半 Step 5）

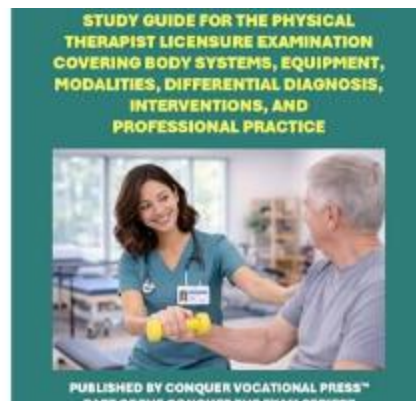
提示された課題を解決するため、各チームで「プロジェクトの企画・作成・実行」を行います。

実行する手段は各チームの裁量に任せられ、最適なアプローチを選択します。



① 資料作成・配布

業務マニュアルやガイドラインを作成し、現場に配布・共有する。



② 対面での実技指導

技術的な課題に対し、現場で直接指導や勉強会を実施する。



③ Webセミナー

オンラインツールを活用し、時間や場所を問わず学べる環境を提供する。

年間スケジュール（全体工程表）



振り返り (リフレクション)

結果ではなく「プロセス」から学ぶ

プロジェクトの企画は、成功や失敗といった

「結果」だけで評価されるものではありません。

最も重要なのは、自分たちで実行した内容を客観的に振り返る（リフレクション）ことです。

- ✔ 成功要因：何が上手くいったのか？その理由は？
- ✔ 失敗要因：なぜ失敗したのか？見落としは？
- ✔ 次への行動：この経験を次にどう活かすか？



質疑応答

「教える側」「リーダー」としての第一歩を、共に踏み出しましょう。

世話人（教育班・中堅チーム）の連絡先

磯子中央病院：isoreha@isogohp.jp

横浜いずみ老健：izuro-reha@izumidai.net

ハートケアいずみ訪看：hcr-reha@izumidai.net